

挑戦、変革、コミュニケーション 皆さんとともに進化するまちづくりを



佐世保市長 朝長 則男

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、輝かしい新春を健やかに迎えたいとお喜び申し上げます。

本市は昨年、江迎、鹿町の両町と合併し、新佐世保市となって初めての新年を迎えることになりました。新しい一年がいよいよ始まりますが、本年も市民の皆さまと一体となって、明るく、豊かな、住みやすいまちづくりにまい進していきたいと思っております。

このまちづくりを進めていく上で、今、キーワードになっているのが、地域のことは地域が決めるという「地域主権」です。政府の新年度の予算案にも、まずは都道

から感謝の意を表しますとともに、新年を迎えるに当たり、残された任期も全力で市政推進に取り組む決意を新たにしているところです。

本市には今後、解決・実現していかなければならない中長期的な重要課題が山積しており、本年も特に次の事項に取り組んでいきたいと思っております。

- 雇用(働く場)の確保・拡大を目指すための各種産業の振興(企業立地の推進、中小企業の支援、観光・物産・農水産業の振興など)
- 石木ダムの建設促進などによる水資源の確保
- 中学校給食完全実施に向けた施設整備(平成24年度)、学校耐震化の推進、長崎がんばらば国体(平成26年度)の開催準備など、教育・文化・スポーツの振興
- 地域医療の再生、子ども発達センターの再整備、交通不便地区対策など、医療・福祉の充実
- 各地域のまちづくり(中心市街地の活性化、早岐・相浦地域における地域核

府県分として、各府省の枠にとらわれず、自治体の裁量で使途が決められる「一括交付金」が盛り込まれる予定になっています。この交付金は平成24年度までには市町村にも導入される見込みであり、財源面においても、政策の自由度が高まっていくこれからの地方自治体には、「自分たちのまちは自分たちがつくるんだ」という意識を高め、自己決定・自己責任による自立的な行政運営が求められています。

私は平成19年4月に市長に就任し、市民の皆さまに常に温かいご支援とご協力をいただいたおかげで、これまで市政を運営することができました。皆さまに心

の形成、合併地域の活性化などの推進

- 前畑弾薬庫の移転・返還、周辺地区の海上自衛隊による利活用など、港のすみ分けへの積極的な取り組み
- 東アジアへ向けた九州サブゲートウェイ(副玄関口)構想の推進
- 行財政改革の推進

私は市政を運営していく上で、チャレンジ(挑戦、Challenge)、チェンジ(変革、Change)、コミュニケーション(相互意思疎通、Communication)という3つの「C」を常に念頭に置いています。チャレンジ精神を持ち、チャレンジすることを恐れず、市民や市議会、関係機関などの皆さまと十分にコミュニケーションをとりながら、本年も「進化するまちづくり」を目指してまいりますので、市民の皆さまには、引き続き温かいご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。ことし一年、市民の皆さまが幸せでありますようお願いして、新春のごあいさつといたします。



写真:市営新みなと駐車場(新港町)周辺から佐世保湾を臨む



西九州自動車道「佐世保みなとIC～相浦中里IC」が開通(3月20日)



佐世保市・江迎町・鹿町町合併記念式典(4月3日)



亜熱帯動植物園「ふれあい体験広場」がオープン(4月3日)



「ハウステンボス」がリニューアルオープン(4月28日)



「させば復興券」の販売開始(7月23日)



「市営高砂駐車場」がオープン(9月21日)



「佐世保市少年科学館」がオープン(10月1日)



アンテナショップ「キトラス」が博多にオープン(10月2日)